保健委員の男子が裸になって、女の子におちんちんを見せる保健の授業。女の子が1人ずつ皮を剥いて元に戻す。

僕は高校で保健委員を務めていた。クラスでは真面目で几帳面な性格が買われて、先生たちからよく頼りにされるタイプだった。保健委員の仕事は健康診断の準備を手伝ったり、保健だよりを作ったりと地味なものが多いけど、それなりに責任感を持ってこなしていた。そんなある日の放課後、いつものよ

うに保健室に顔を出したら、保健の先生に呼び止められた。

「洋一くん、ちょっと大事なお願いがあるの。明日、性教育の特別授業をやるんだけど、男子の代表として協力してくれないかしら？ 今回は女子だけを集めて、実際の男性器について詳しく、触って理解してもらう授業にしたいの。教科書や模型だけじゃどうしても実感が湧きにくい部分があるから……。君なら信頼できるし、落ち着いて対応してくれそうだからお願いしたいのよ」

突然の話に頭が真っ白になった。性教育の実演？ しかも男子の体を女子たちに見せて、触らせる？

冗談かと思ったけど、先生の目は本気だった。「最近の子たちはネットで間違った情報ばかり見て、正しい知識が身についていないの。恥ずかしいかもしれないけど、これこそ本当の性教育だと思うの。洋一くんが嫌じゃなければ……」と続けられて、断る言葉が出てこなかった。保健委員として学校の健康教育に貢献するのは当然だし、先生に信頼されているというのも嬉しかった。結局「わかりました」と頷いてしまった。先生はほっとしたように笑って「ありがとう。明日の放課後、保健室に来てね。女子たちはもう全員に連絡してあるわ」と言った。

その夜はほとんど眠れなかった。明日の授業で何をされるのか、想像するだけで顔が熱くなった。友達に相談するわけにもいかず、一人で悶々と過ごした。翌日、学校にいる間も授業に集中できなかった。

放課後、保健室のドアをノックして入ると、中には女子たちが20人ほど集まっていた。同じクラスの子、隣のクラスの子、顔見知りもいればほとんど話したことのない子もいる。みんな制服姿で、椅子に座ったり壁に寄りかかったりして待っている。僕が入ると、20人の視線が同時に僕に突き刺さる。先生が明るく「さあ、洋一くんが来てくれたわ

よ。今日は男子の生殖器について、実際に学んでいきましょうね」と言い、僕を部屋の中央に導いた。カーテンが引かれた簡易的なスペースが作られていて、そこに立たされる形になった。女子たちは半円を描くように配置され、僕を囲む。

先生がさらっと「じゃあ、洋一くん、服を全部脱いでくれる？ ちゃんと全体が見えるようにね」と指示してきた。深呼吸を何度も繰り返して、ゆっくりブレザーを脱ぎ、シャツのボタンを外し始めた。ズボンを下ろし、靴下を脱ぎ、最後に下着。パンツを下ろした瞬間、顔が燃えるよう

に熱くなった。完全に裸で立つ僕を、20人の女子がじっと見つめている。体が震えそうになるのを必死で抑えた。